

【 第4回 U-22東アジア選手権 】

2016年7月3日～7月10日 中国・蘇州

試 合 結 果 報 告 7 月 4 日 (月)

J P N	V S	K O R (韓国)
12	前半	15
12	後半	16
0	第1延長	0
0	第2延長	0
24	合計	31

個人得点

名前	前半	後半	第1延長	第2延長	合計
高光 凌	0	0			0
高野 颯太	1	2			3
浅川 律樹	0	1			1
部井久 アダム勇樹	2	1			3
服部 将成	0	1			1
徳田 廉之助	3	1			4
藤川 翔大	0	1			1
村木 幸輝	3	1			4
山田 翔騎	0	2			2
藤田 龍雅	0	0			0
堀田 陽大	0	0			0
矢野 世人	3	2			5
助安 大成	0	0			0
若狭 圭悟	0	0			0
萩原 奨太郎	0	0			0
	0	0			0
					0
					0
合計	12	12	0	0	24

戦評

U22東アジア選手権大会の初戦は、韓国代表と対戦した。日本ユース代表チームは、この試合のDFテーマとして、相手選手にハードなコンタクトすること、ボールに密集して間を簡単に割らせないこと、OFにおいては、相手DFを密集させて広いスペースを作り、強い1対1を行うことをテーマとして戦った。試合開始後、ハードなコンタクトDFで気持ちのこもったDFができたが、韓国№77の力強いミドルシュートで先制された。日本は№13矢野のサイドシュートで追いつき、一進一退の攻防を繰り返す。前半9分№7徳田の鮮やかなミドルシュートでこの試合初めてのリードを奪う。しかし、10分韓国も№18のサイドシュートを皮切りに連続得点で6 - 8と韓国2点リード。17分韓国№25の7MTから連続失点。7 - 10と韓国に3点リードを許す。ここから日本も№13矢野、№2高野の連続得点で9 - 10と1点差に迫る。その後、№12堀田の好セーブが光り一進一退の攻防が続く。終盤にハードDFを続ける日本に対し、退場者が相次ぎ日本の3点ビハインドで前半終了。後半8分、日本は№10山田のスピードを活かしたプレーにより2点差に迫るも、後半9分から日本に退場者が相次ぎ韓国に3連取を許し、17 - 22とリードを広げられる。その後、キャプテン村木の体を張ったプレーで喰らいつくが、韓国の体格を活かしたプレーにより後半19分この試合最大7点差となる。そこから日本も高いディフェンス隊形にシフトを変え、№13矢野・№2高野で連取。5点差に迫る。残り10分からはオフェンスでチャンスを作るものの、韓国№12GKのファインセーブにあい、最終的には7点差で敗れた。初めての国際大会において、ハードなディフェンスをテーマとして掲げて臨んだ試合の中で、終始アグレッシブにコンタクトできたことは、アジアユースに向けて大きな手応えを感じられる試合となった。

報告記入者：

所 努